

第14回(2021年度)経営者「環境力」大賞 授賞理由

事務局

2022年2月25日、2021年度「経営者」環境力大賞顕彰式をオンラインにて開催しました。ここでは大賞受賞者の皆様の授賞理由についてご紹介します。

株式会社大熊工業 代表取締役

大熊 英樹(おおくま ひでき)氏

土木工事、インテリア、建築の3業種を行う会社。新規事業立ち上げ時に訪れたインドネシアで貧困と直面。それが契機に「子ども食堂」を地元でオープン。優れている点は、

- ・環境力とは人を育てることで環境を作るのも人、今子供たちを育てることが将来につながるの思いから、「子ども食堂」を通じて持続可能な地域と人づくりに貢献している点
- ・個人のボランティアには限界があるとして、他社とも連携して、事業の収益の一部を子ども食堂の運営に当て継続的な活動を可能にしている点
- ・大量生産、安価な製品づくりは日本には適さず、大手と同じやり方では中小は持たないという考えから、手間ひまかけて信頼を得つつ物の価値を認めてもらう努力や自分たちが生きていけるゾーンの中でナンバーワンを目指している点
- ・離職者を出さないことを念頭に、個々の社員の特性を生かし、全員で楽しく会社経営を行っている点

株式会社セラテックエンジニアリング

代表取締役社長

岡本 正昭(おかもと まさあき)氏

圧電セラミックス材料開発、応用商品の開発、製造、販売を行う会社で、ガス器具用点火栓、アウトドア用コンロやカセットコンロのほか100円ライターにも使われている。優

れている点は、

- ・電池レス、メンテフリー、高感度、高耐久、低コストという圧電センサーの特性を活用する同社の圧電素子技術は、環境面での可能性や経済性が感じられ、圧電素子の非鉛化への対応なども試みるなど、環境と経済の両立を目指し着実な経営を行っている点
- ・アナログからデジタルへの移行が進む中、「ミレーの落穂ひろい」が経営方針とするなど、大企業が取り組まないニッチな市場で、「環境」を意識した事業を実施し、現在も圧電の新たな可能性を探求し続けるなど、大手企業との差別化戦略を取り、生産拠点を中国にシフトしファブレス化を図るなど、中小企業としてのしたたかな戦略性がある点
- ・多摩地域の経済活性化に長年尽力している点

メトロ電気工業株式会社 代表取締役社長

川合 誠治(かわい せいじ)氏

大正2年に白熱電気製造を目的に設立され、家電、ヒーター管、産業用加熱器事業を展開する会社。優れている点は、

- ・創業108年にあたり、CO₂削減に寄与する製品で価値を創造する加熱機械器具エンジニアリング企業に生まれ変わることを明言するなど、長い歴史の中でも常に時代に沿って事業を変遷する先見性と勇気も持っている点
- ・「従業員あつての会社」ということで時間有給制度の導入、70歳までの雇用継続など働くことの価値を認め、働く人の意欲を高

める取組を進めている点

- ・成長ではなく、健全で持続する経営姿勢を貫き、ニッチ市場でオンリーワンのポジションを獲得することを目指すなど、一見時代遅れのローテク技術をベースに、熱源のニーズ開拓し、製品を開発するユニークなポジショニングを取っている点

ゼネラルヒートポンプ工業株式会社 代表取締役 柴 芳郎（しば よしろう）氏

地中熱、温泉排湯熱、地下水熱、排熱など様々な熱源を活用した様々な形態のヒートポンプを開発し、その維持管理等を行う会社。優れている点は、

- ・国内外の時代の潮流を先取りし、蓄えてきた熱利用の技術と多種多様なヒートポンプの利用により CO₂ 削減にいち早く取り組むなど、先見性と戦略性がある点
- ・技術者として、自然の理にそぐわないことはしないという信念のもと、自社従業員の技術向上のみならず、他社や大学とも連携し、再生可能エネルギー熱活用の普及活動や、業界内では技術評価や訓練などを通じて業界全体の技術レベルアップに努めている点
- ・廃熱等の未利用というテーマで大手下請けではなく、現場にカスタマイズしたものを一品一品作り続けている点
- ・SDGs への積極的な取り組み、労働環境整備など時代を先取している点

株式会社エムダイヤ 代表取締役 森 弘吉（もり ひろよし）氏

リサイクル機械の製造・販売、リサイクル事業、各種産業機械・工具の点検・修理・改造などを行う会社。優れている点は、

- ・知的資産経営報告書を作成し、社員に企業理念の徹底を図り、自ら考え行動できる人

材の育成を図るなど、社員とともに成長する年輪経営を実践している点

- ・現在の気候変動など環境問題解決には「科学」は不可欠な要素であるとして、経営理念に「科学性」を取り入れるとともに、それをリサイクル技術の開発に生かしている点
- ・自分勝手な行動はとらず、社会に対して恥ずかしくない態度・生き方・精神性を常に心がけ、信頼関係を大切にする、社会や会社に貢献することを常に考えるなど、「今だけ、金だけ、自分だけ」が横行する現代社会においても、人として当たり前のことを常に心がける人間性を事業の中でも発揮している点

株式会社若林商店 代表取締役

若林 和憲（わかばやし かずのり）氏

先代の時代から一貫して、空ビンの回収・リサイクルを始め、その他廃棄物の中間処理・運搬を行う会社。優れている点は、

- ・ビンが衰退した 90 年代からプラ問題が世界的な課題となっている現在まで、「天然素材」「使い捨てでない、繰り返し使える」ビンは、安心・安全で環境にも良い容器で持続可能な資源であると確信して、それを継続的に利活用し事業の継続性も担保してきた点
- ・多摩地区で自社が回収した生ビンを福祉関係のセンターで洗い、それを地元の酒蔵にビンとして提供するなど、他社とも協同し、福祉の視点も取り入れ、地域循環型の事業に徹している点
- ・ビン回収や選別には多大な労力と保管場所などコストもかかる中、CO₂ 削減、エネルギーや水資源の削減など環境負荷の低減に役立つ仕事と確信して、地道な作業にも、情熱と誇りをもって継続している点